

指導者名( )

氏名( )

**(3)経管栄養「実地研修」  
胃ろう又は腸ろうによる経管栄養 指導者評価票**

あなたが指導している介護職員は下記の業務内容について、どの程度達成できているか該当する番号を記入して下さい。  
※業務内容については、手引きの留意事項・考えられる主なリスクを参照のこと。

達成度	ア. 1人で実施し、手引きの手順通りに実施できている
	イ. 1人で実施しているが、手引きの手順を抜かしたり間違えており、実施後に指導した
	ウ. 1人で実施しているが、手引きの手順を抜かしたり間違えており、その場で指導した(その場では見過ごせないレベル)
	エ. 1人での実施を任せられるレベルにはない

回数		例	( )回目	( )回目	( )回目	( )回目	( )回目	
月日		10.5						
時間		14:00						
準備	1 医師の指示等の確認を行う	ア						
	2 手洗いをを行う	ア						
	3 必要な物品を準備する	ア						
	4 指示された栄養剤(流動食)の種類・量・時間を確認する	ア						
	5 経管栄養の注入準備を行う	ア						
	6 準備した栄養剤(流動食)を利用者のもとに運ぶ	ア						
実施	7 利用者に本人確認を行い、経管栄養の実施について説明する	ア						
	8 注入する栄養剤(流動食)が利用者本人のものであるかを確認し、適切な体位をとり、環境を整備する	ア						
	9 経管栄養チューブに不具合がないか確認し、確実に接続する	ア						
	経管栄養の実施	10 注入を開始し、注入直後の様子を観察する	ア					
		11 注入中の表情や状態を定期的に観察する	ア					
		12 注入中の利用者の体位を観察する	ア					
		13 注入物の滴下の状態を観察する	ア					
		14 挿入部からの栄養剤(流動食)のもれを確認する	ア					
		15 注入中に利用者の状態を観察する	ア					
		16 注入終了後は白湯を注入し、状態を観察する	ア					
	17 クレンメを閉め、経管栄養チューブの接続を外し、半座位の状態を保つ	ア						
報告	18 注入後、利用者の状態を観察し、報告する	イ						
	19 体位交換が必要な利用者に対しては、異常が無ければ体位変換を再開する	ア						
	20 ヒヤリハット・アクシデントの報告をする(該当する場合のみ)	ア						
片付け	21 環境を汚染させないよう使用物品を速やかに後片付けする	ア						
記録	22 実施記録を記載する	ア						
アの個数※		21						
医行為実施対象者番号								
※指導内容を具体的に記述して下さい 手引きの留意事項・考えられる主なリスク等に 記載されている細目レベルで記述								